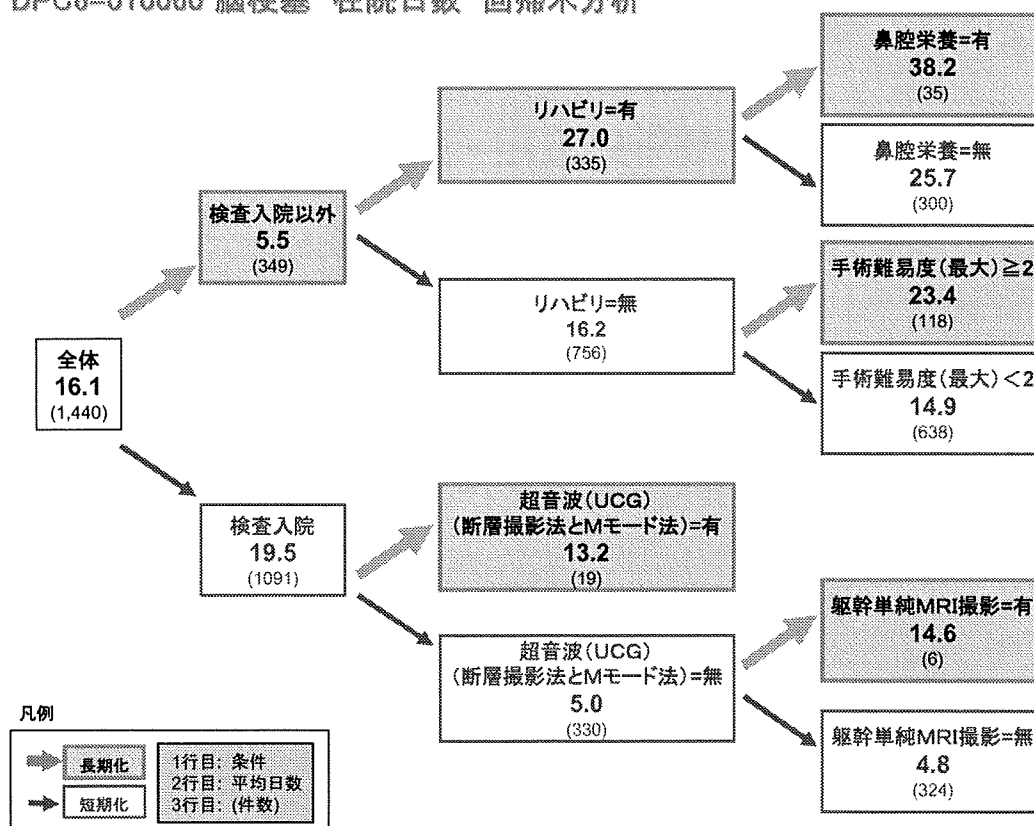


DPC6=010060 脳梗塞 在院日数 回帰木分析



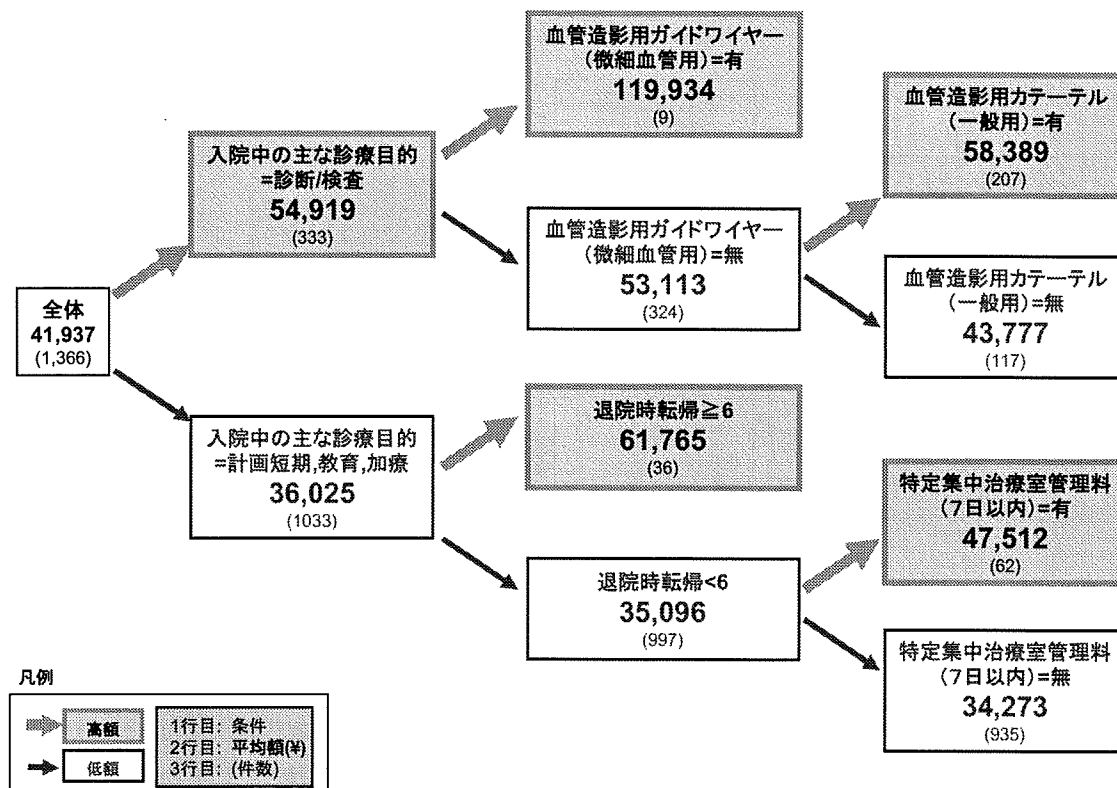
DPC6=010060 脳梗塞 在院日数 回帰木分析

在院日数 回帰木分析から分かる在院日数の変化要因

以下の要因によって在院日数が長くなる傾向がある。

- 検査入院以外
- リハビリ=有
- 超音波(UCG)(断層撮影法とMモード法)=有
- 鼻腔栄養=有
- 手術難易度(最大) ≥ 2
- 躯幹単純MRI撮影=有

DPC6=010060 脳梗塞 出来高換算額/日 回帰木分析



DPC6=010060 脳梗塞 出来高換算額/日 回帰木分析

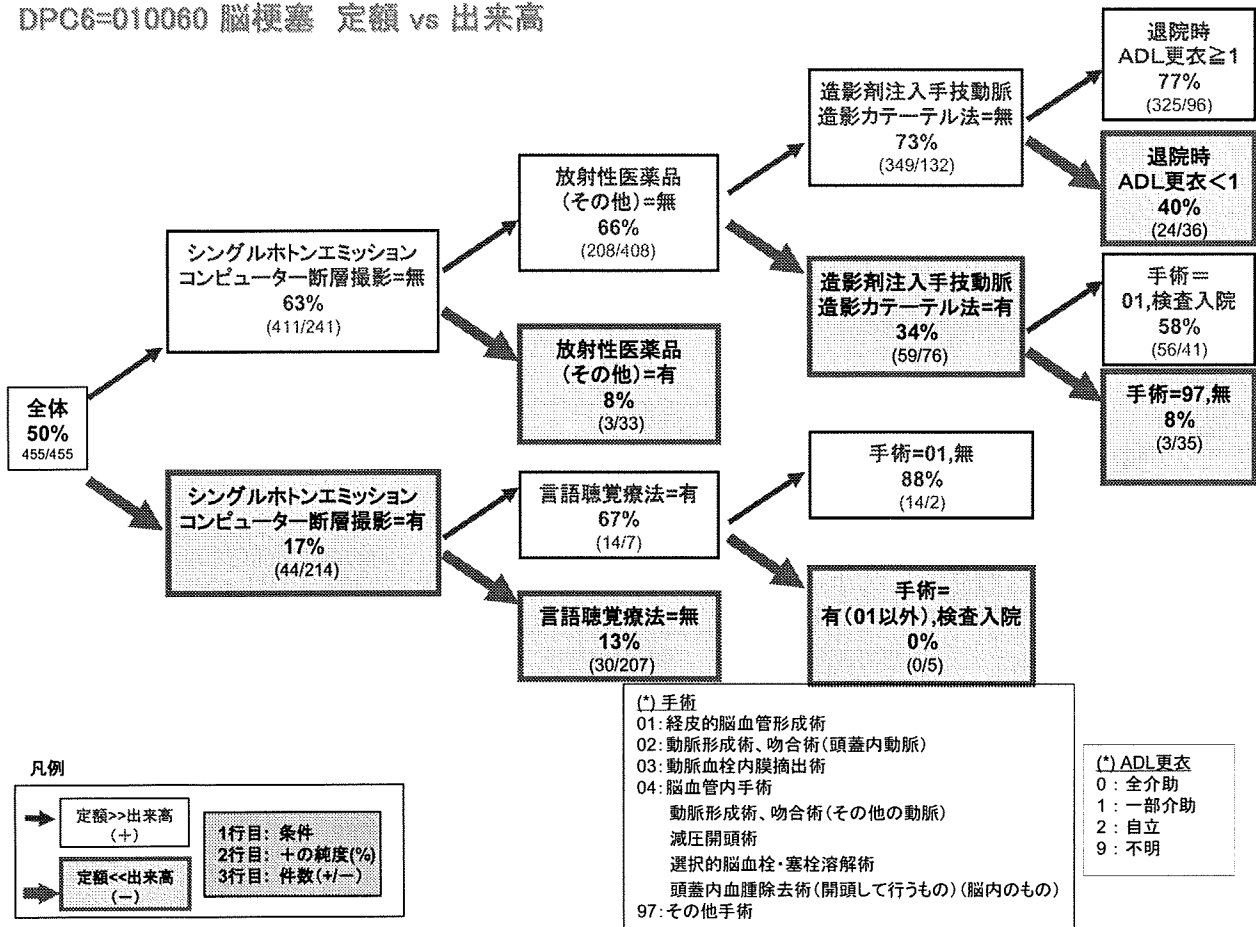
出来高換算額/日 回帰木分析から分かる出来高額の変化要因

以下の場合に1日あたりの出来高換算額(包括対象部分)が高くなる傾向がある。

- 入院中の主な診療目的=診断/検査
- 血管造影用ガイドワイヤー(微細血管用)=有
- 退院時転帰≥6 (*)
- 血管造影用カテーテル(一般用)=有
- 特定集中治療室管理料(7日以内)=有

- (*) 退院時転帰
- 1: 治癒
 - 2: 軽快
 - 3: 寛解
 - 4: 不変
 - 5: 増悪
 - 6: 死亡
 - 7: その他死亡
 - 9: その他

DPC6=010060 脳梗塞 定額 vs 出来高



DPC6=010060 脳梗塞 定額 vs 出来高

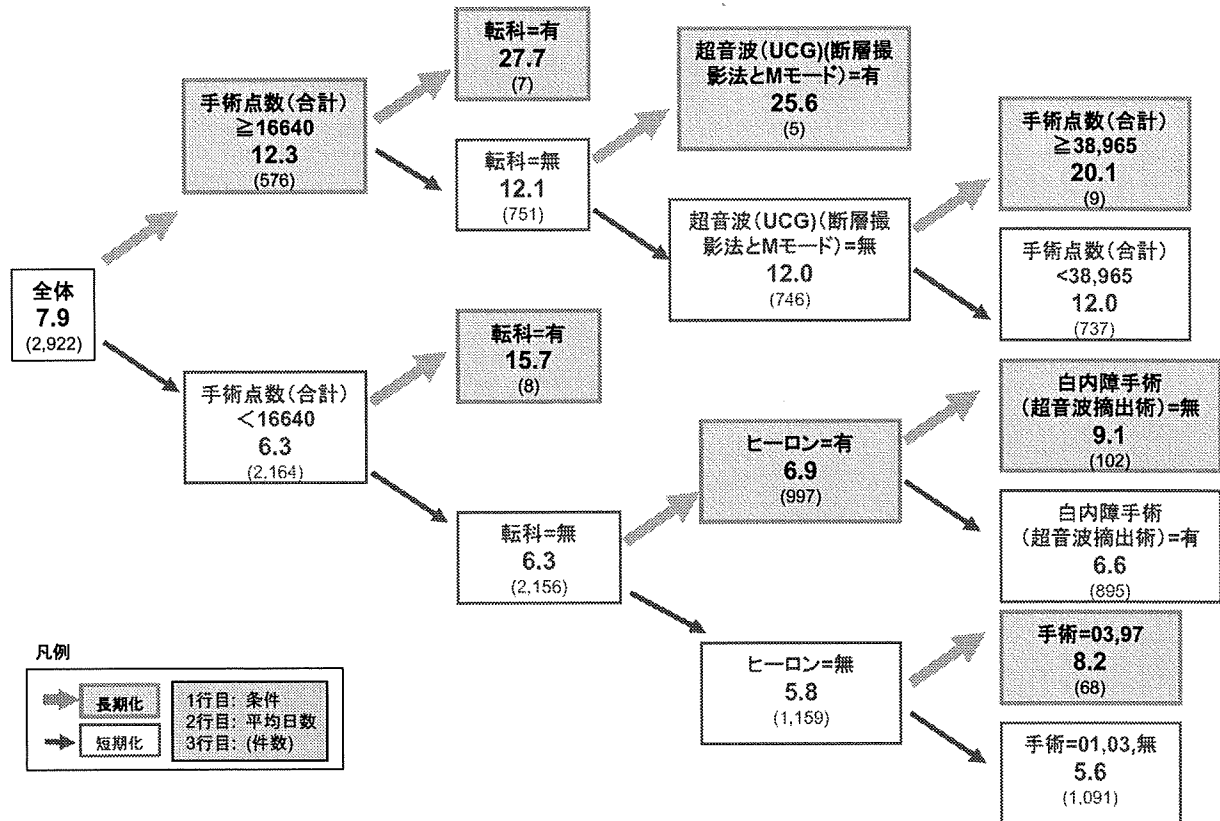
定額/出来高ギャップ分析から分かる問題点

以下の条件の下では、特に顕著に 定額が出来高を下回る傾向がある。

- シングルホトンエミッションコンピュータ断層撮影=有
- 放射性医薬品(その他)=有
- 言語聴覚療法=無
- 手術=有(01以外)

DPC6=020110 白内障、水晶体の疾患

DPC6=020110 白内障、水晶体の疾患 在院日数 回帰木分析



DPC6=020110 白内障、水晶体の疾患 在院日数 回帰木分析

在院日数 回帰木分析から分かる在院日数の変化要因

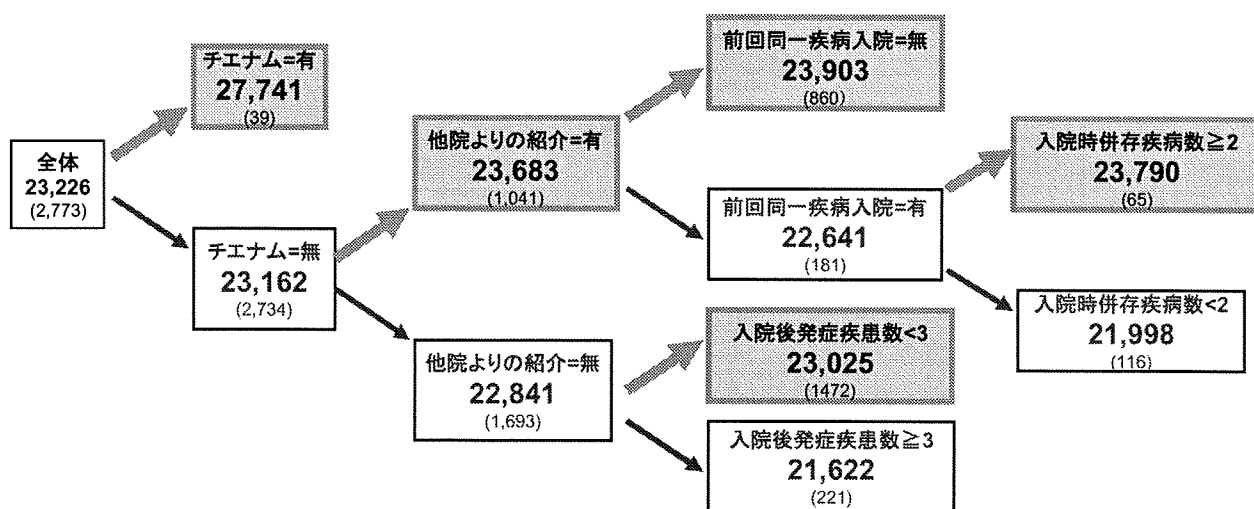
以下の要因によって在院日数が長くなる傾向がある。

- 手術点数(合計) ≥16,640
- 転科=有
- 超音波(UCG)(断層撮影法とMモード)=有
- ヒーロン=有
- 白内障手術(超音波摘出術)=無
- 手術=03, 97

(*)手術

01,02: 白内障手術 後発切開術
 嚢内摘出術
 吸引術
 超音波摘出術
 嚢外摘出術(後嚢研磨を含む。)
 経毛様体扁平部水晶体摘出術
 03: 眼内レンズ挿入手術
 97: その他手術

DPC6=020110 白内障、水晶体の疾患 出来高換算額/日 回帰木分析



凡例



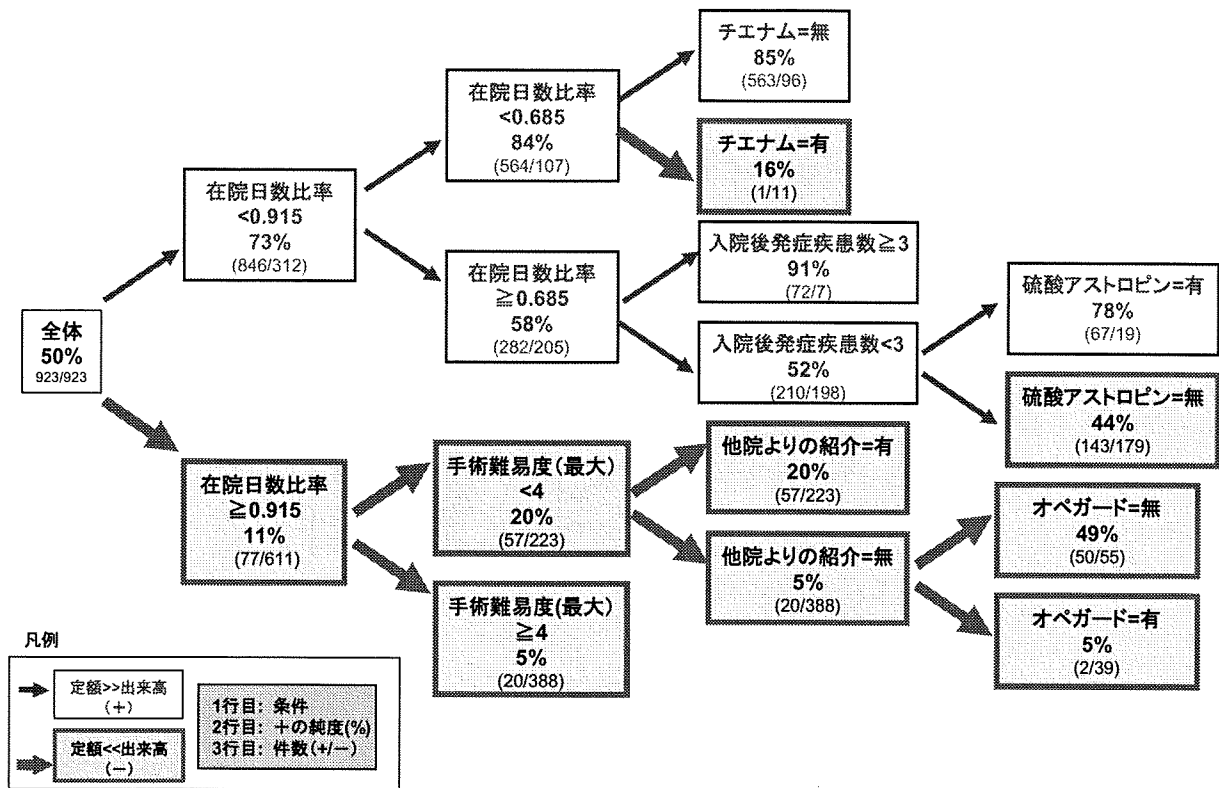
DPC6=020110 白内障、水晶体の疾患 出来高換算額/日 回帰木分析

出来高換算額/日 回帰木分析から分かる出来高額の变化要因

以下の場合に1日あたりの出来高換算額(包括対象部分)が高くなる傾向がある。

- チエナム=有
- 他院よりの紹介=有
- 前回同一疾病入院=有
- 入院後発症疾患数<3
- 入院時併存疾病数≥2

DPC6=020110 白内障、水晶体の疾患 定額 vs 出来高



DPC6=020110 白内障、水晶体の疾患 定額 vs 出来高

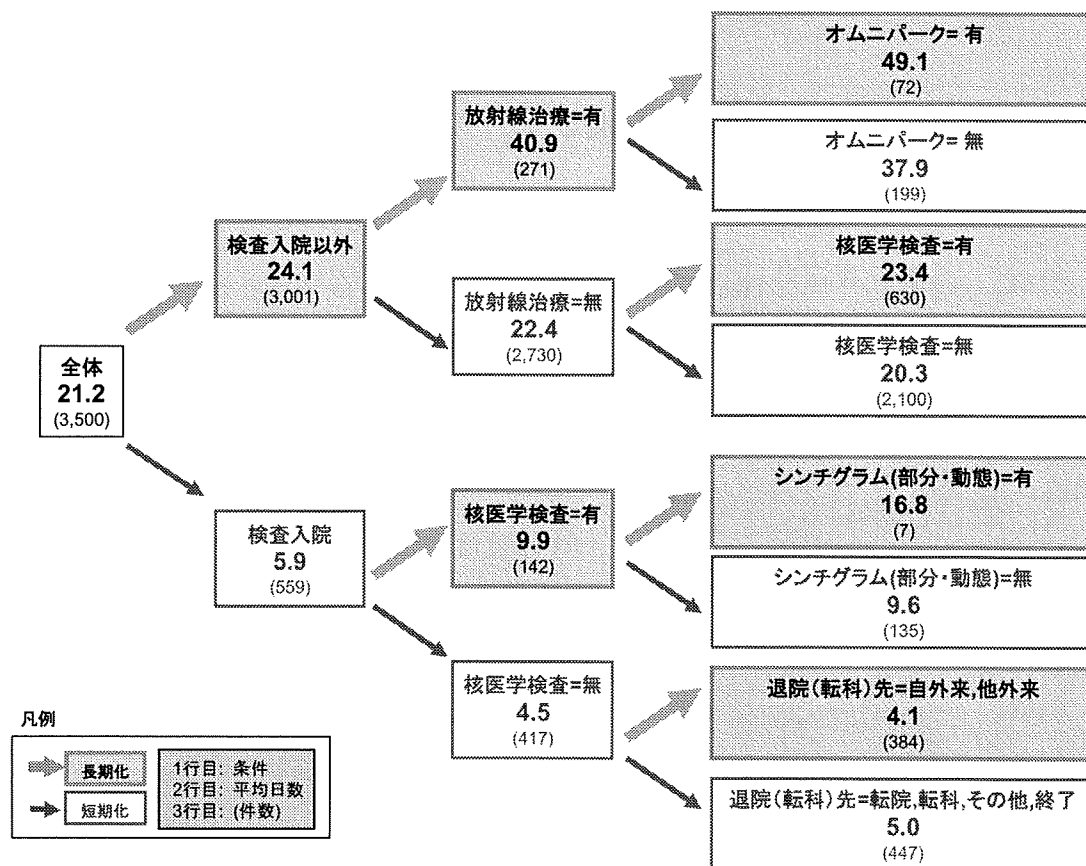
定額/出来高ギャップ分析から分かる問題点

以下の条件の下では、特に顕著に 定額が出来高を下回る傾向がある。

- 在院日数比率 ≥ 0.915
- 手術難易度(最大) ≥ 4
- チエナム=有
- 他院よりの紹介=有
- オベガード=有

DPC6=040040 肺の悪性腫瘍

DPC6=040040 肺の悪性腫瘍 在院日数 回帰木分析



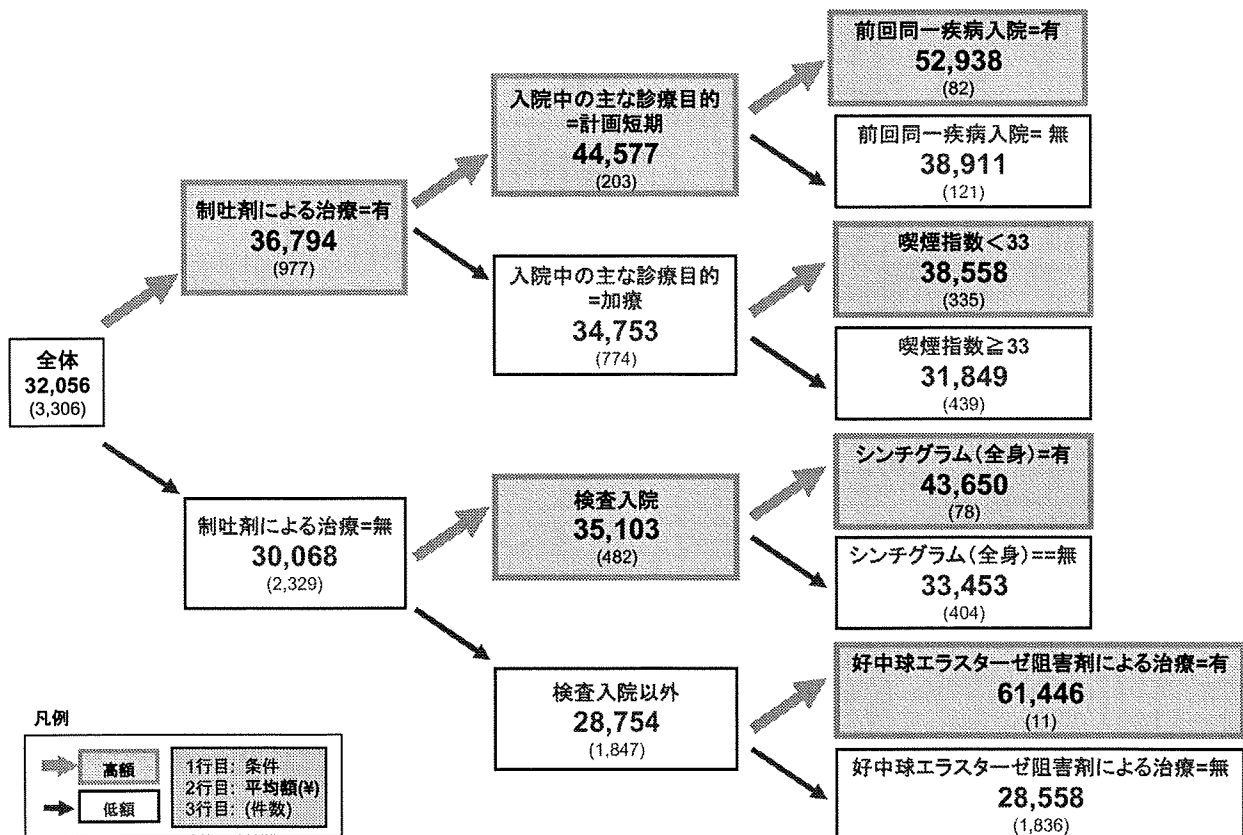
DPC6=040040 肺の悪性腫瘍 在院日数 回帰木分析

在院日数 回帰木分析から分かる在院日数の変化要因

以下の要因によって在院日数が長くなる傾向がある。

- 検査入院以外
- 放射線治療=有
- 核医学検査=有
- オムニパーク=有
- シンチグラム(部分・動態)=有
- 退院(転科)先=自外来,他外来

DPC6=040040 肺の悪性腫瘍 出来高換算額/日 回帰木分析



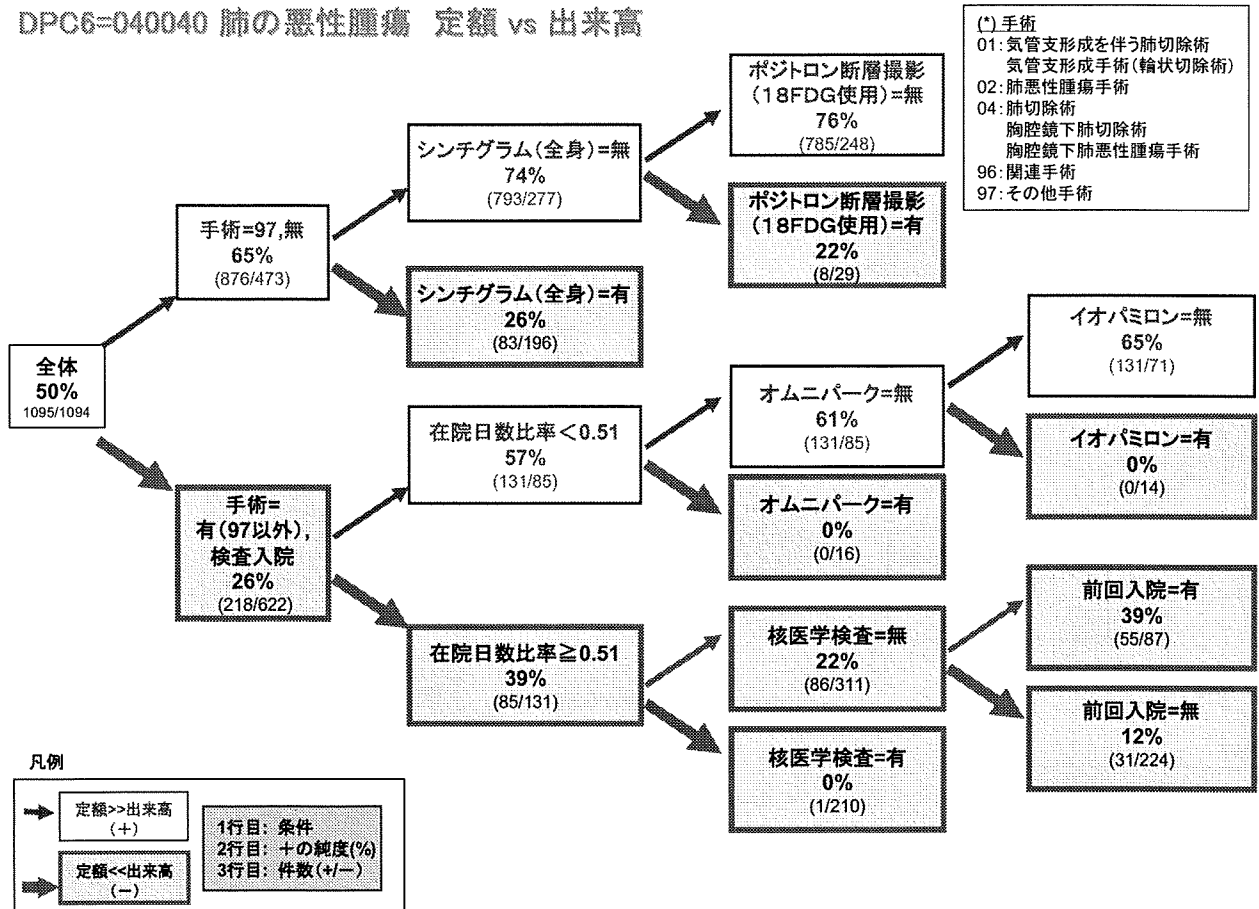
DPC6=040040 肺の悪性腫瘍 出来高換算額/日 回帰木分析

出来高換算額/日 回帰木分析から分かる出来高額の変化要因

以下の場合に1日あたりの出来高換算額(包括対象部分)が高くなる傾向がある。

- 制吐剤による治療=有
- 入院中の主な診療目的=計画短期
- 検査入院
- 前回同一疾病入院=有
- 喫煙指数<33
- シンチグラム(全身)=有
- 好中球エラスターゼ阻害剤による治療=有

DPC6=040040 肺の悪性腫瘍 定額 vs 出来高



DPC6=040040 肺の悪性腫瘍 定額 vs 出来高

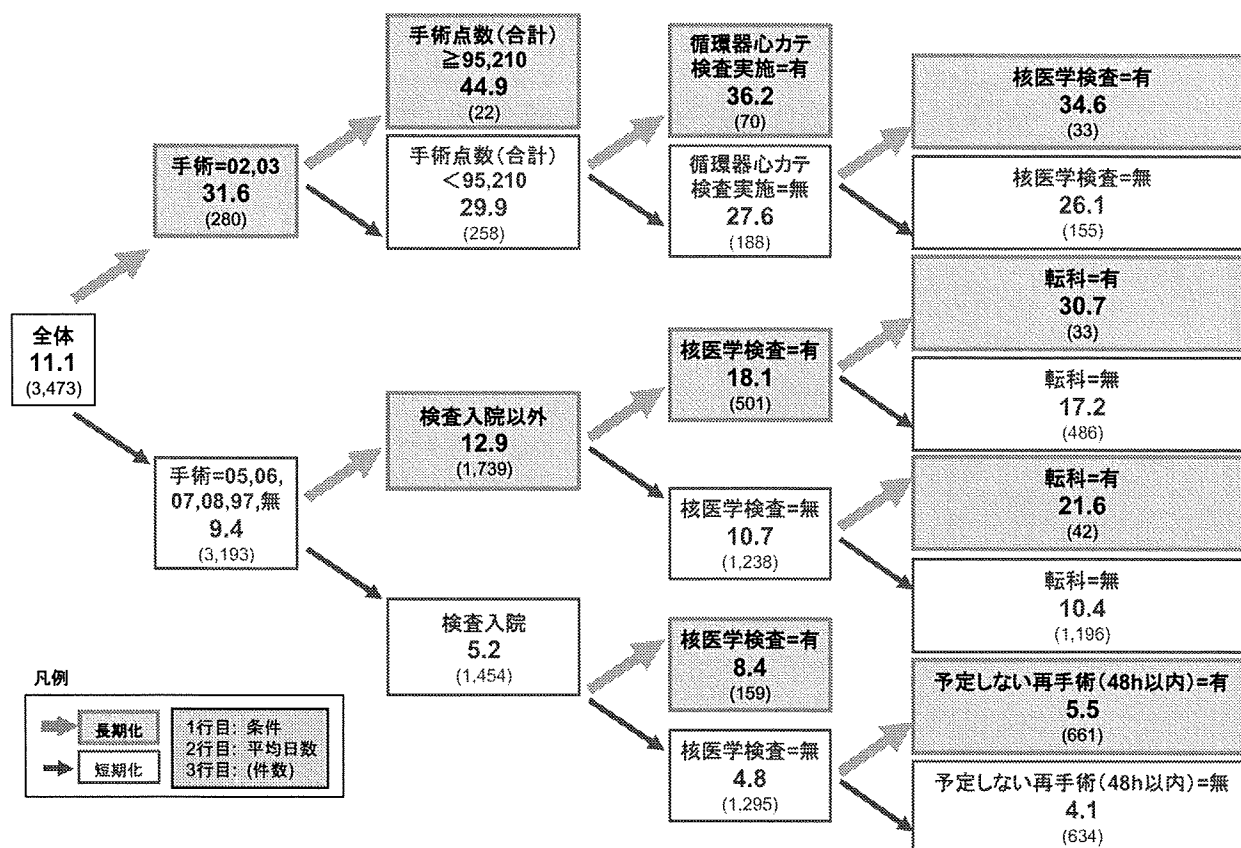
定額/出来高ギャップ分析から分かる問題点

以下の条件の下では、特に顕著に 定額が出来高を下回る傾向がある。

- 手術=有(97以外),検査入院
- シンチグラム(全身)=有
- ポジトロン断層撮影(18FDG使用)=有
- オムニパーク=有
- 核医学検査=有
- イオパミロン=有

DPC6=050050 狭心症、慢性虚血性心疾患

DPC6=050050 狭心症、慢性虚血性心疾患 在院日数 回帰木分析



DPC6=050050 狭心症、慢性虚血性心疾患 在院日数 回帰木分析

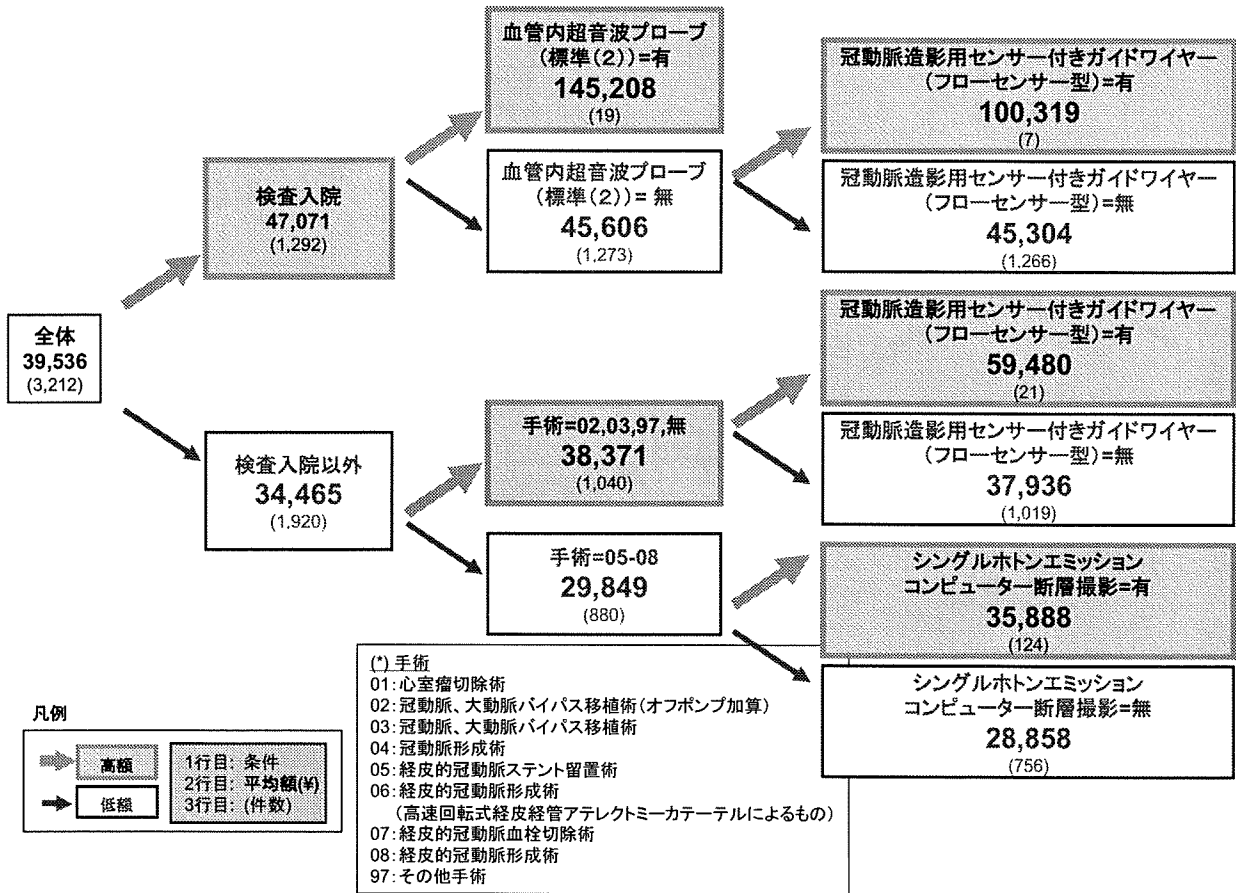
在院日数 回帰木分析から分かる在院日数の変化要因

以下の要因によって在院日数が長くなる傾向がある。

- 手術=02,03
- 手術点数(合計) ≥95,210
- 循環器心カテ検査実施=有
- 核医学検査=有
- 転科=有
- 予定しない再手術(48h以内)=有

- (*) 手術
- 01: 心室瘤切除術
 - 02: 冠動脈、大動脈バイパス移植術(オフポンプ加算)
 - 03: 冠動脈、大動脈バイパス移植術
 - 04: 冠動脈形成術
 - 05: 経皮的冠動脈ステント留置術
 - 06: 経皮的冠動脈形成術
(高速回転式経皮経管アテレクトミーカテーテルによるもの)
 - 07: 経皮的冠動脈血栓切除術
 - 08: 経皮的冠動脈形成術
 - 97: その他手術

DPC6=050050 狭心症、慢性虚血性心疾患 出来高換算額/日 回帰木分析



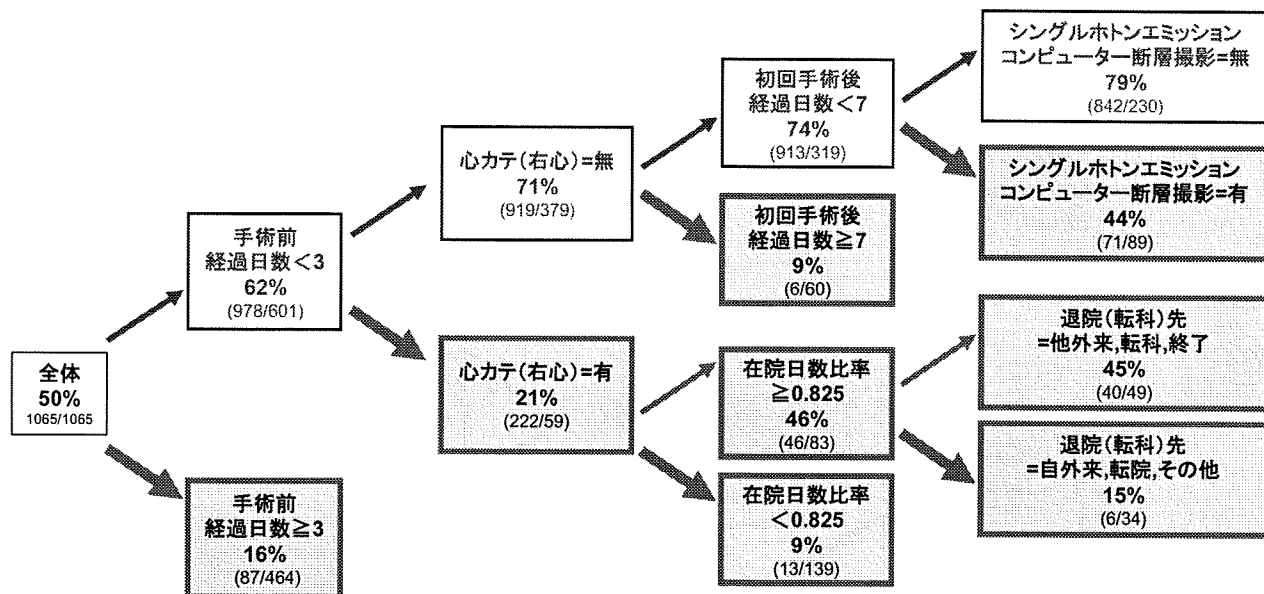
DPC6=050050 狭心症、慢性虚血性心疾患 出来高換算額/日 回帰木分析

出来高換算額/日 回帰木分析から分かる出来高額の变化要因

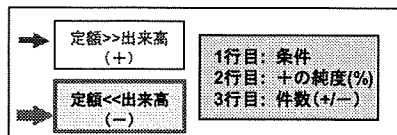
以下の場合に1日あたりの出来高換算額(包括対象部分)が高くなる傾向がある。

- 検査入院
- 血管内超音波プローブ(標準(2))=有
- 手術=02,03,97,無
- 冠動脈造影用センサー付きガイドワイヤー(フローセンサー型)=有
- シングルホトンエミッションコンピューター断層撮影=有

DPC6=050050 狭心症、慢性虚血性心疾患 定額 vs 出来高



凡例



DPC6=050050 狭心症、慢性虚血性心疾患 定額 vs 出来高

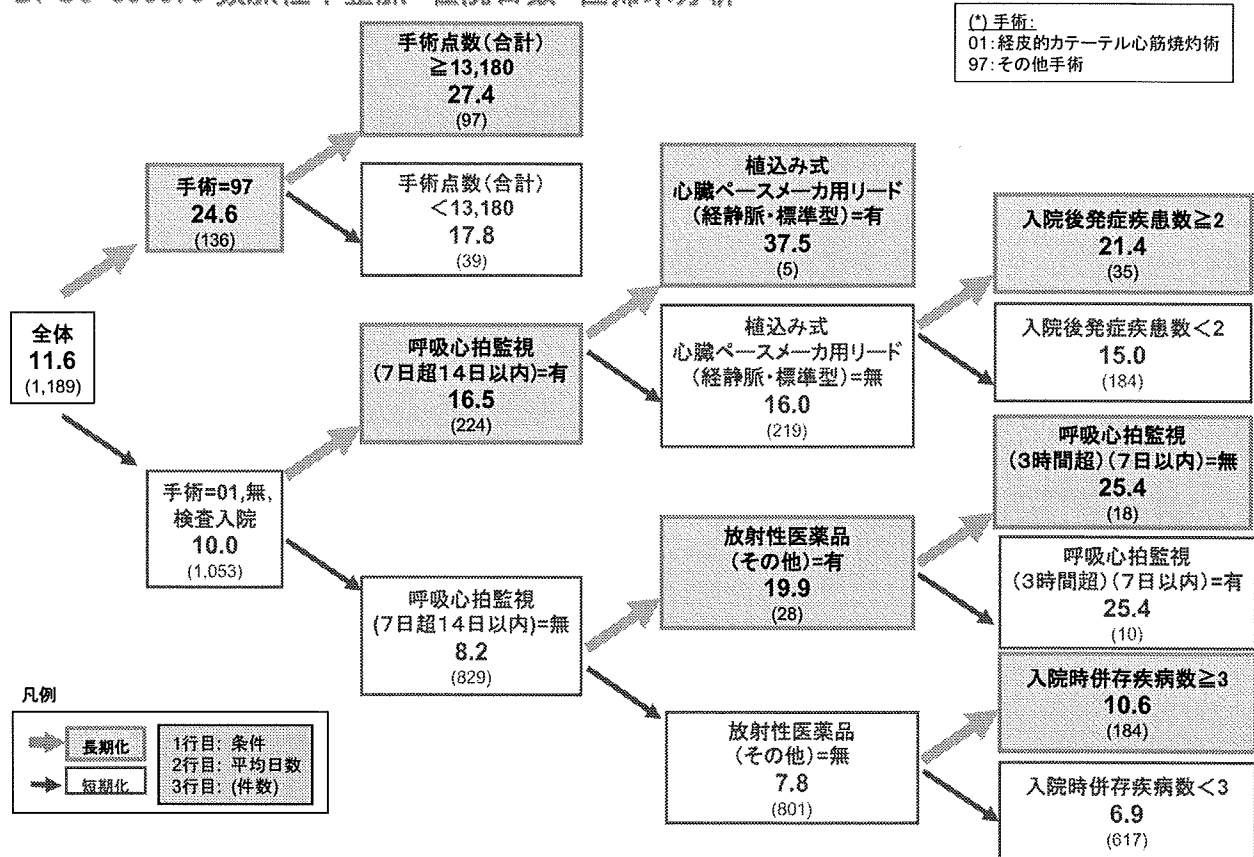
定額/出来高ギャップ分析から分かる問題点

以下の条件の下では、特に顕著に 定額が出来高を下回る傾向がある。

- 手術前経過日数≥3
- 心カテ(右心)=有
- 初回手術後経過日数≥7
- 在院日数比率<0.825
- 退院(転科)先=自外来,転院,その他

DPC6=050070 頻脈性不整脈

DPC6=050070 頻脈性不整脈 在院日数 回帰木分析



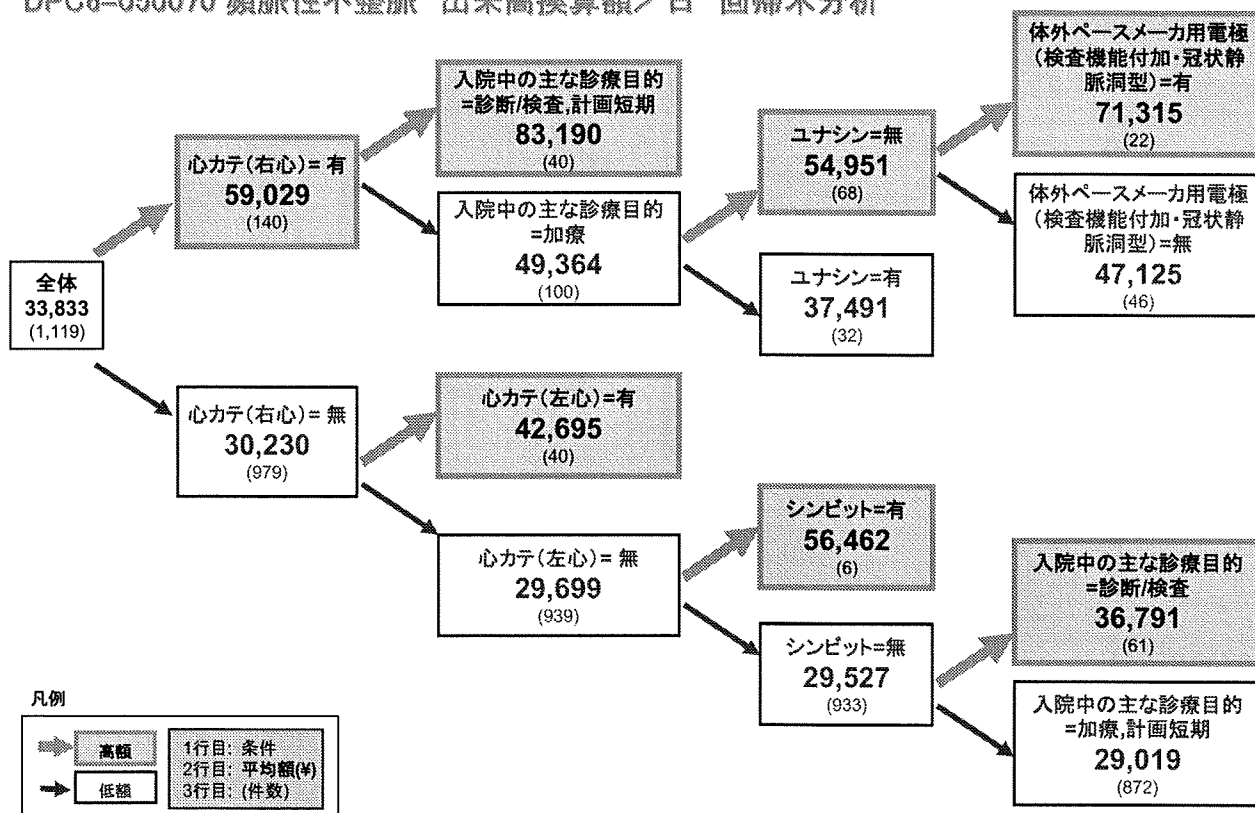
DPC6=050070 頻脈性不整脈 在院日数 回帰木分析

在院日数 回帰木分析から分かる在院日数の変化要因

以下の要因によって在院日数が長くなる傾向がある。

- 手術=97
- 手術点数(合計) ≥ 13,180
- 呼吸心拍監視(7日超14日以内)=有
- 植込み式心臓ペースメーカー用リード(経静脈・標準型)=有
- 放射性医薬品(その他)=有
- 入院後発症疾患数 ≥ 2
- 呼吸心拍監視(3時間超)(7日以内)=無
- 入院時併存疾病数 ≥ 3

DPC6=050070 頻脈性不整脈 出来高換算額/日 回帰木分析



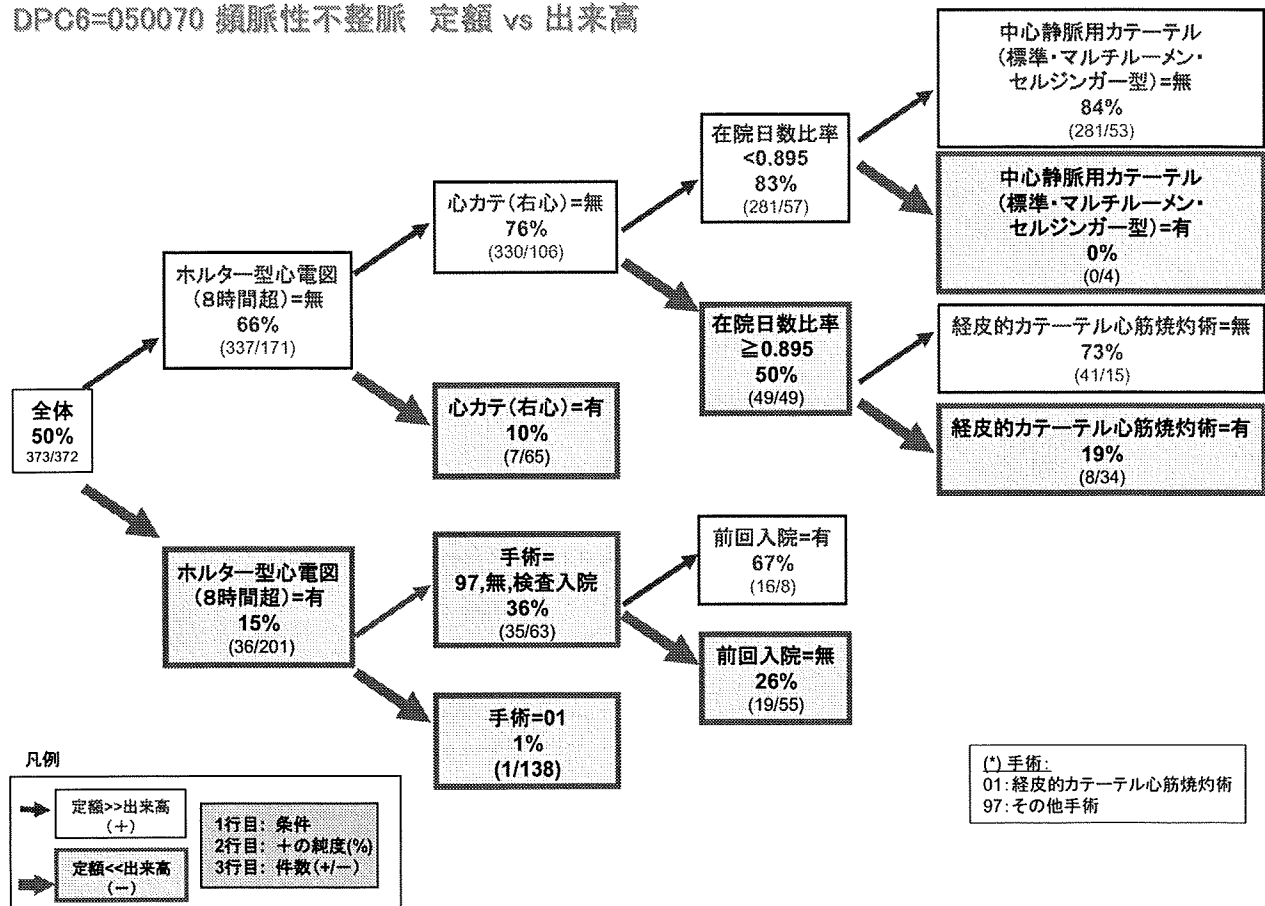
DPC6=050070 頻脈性不整脈 出来高換算額/日 回帰木分析

出来高換算額/日 回帰木分析から分かる出来高額の变化要因

以下の場合に1日あたりの出来高換算額(包括対象部分)が高くなる傾向がある。

- 心カテ(右心)=有
- 入院中の主な診療目的=診断/検査, 計画短期
- 心カテ(左心)=有
- ユナシン=無
- シンビット=有
- 体外ペースメーカー用電極(検査機能付加・冠状静脈洞型)=有

DPC6=050070 頻脈性不整脈 定額 vs 出来高



DPC6=050070 頻脈性不整脈 定額 vs 出来高

定額/出来高ギャップ分析から分かる問題点

以下の条件の下では、特に顕著に 定額が出来高を下回る傾向がある。

- ホルター型心電図(8時間超)=有
- 心カテ(右心)=有
- 手術=01
- 前回入院=無
- 中心静脈用カテーテル(標準・マルチルーメン・セルジンガー型)=有
- 経皮的カテーテル心筋焼灼術=有

DPC6=060020 胃の悪性腫瘍